

奉祝 明治維新150年

明治元年(慶応四年)三月十四日、
明治天皇は京都御所紫宸殿に公
卿・諸侯以下百官を集め、維新の
基本方針を天地の神々にお誓い
になりました。(五箇條の御誓文)
この日、天皇みずからが国難の先
頭に立つて伝統あるこの国を護
り、世界各国との親交を深めつづ
国を隆昌に導こうとするにあた
り、国民への協力を求める告諭
(宸翰)が、御誓文とあわせて布
告されました。

今月の祝日

元日(一日)

年のはじめを祝う大切な日。

成人の日(八日)

満二十歳を迎え、国や社会の為に役立とうとする青年を祝い励ます日。

とこしえに 国まもります
あめつち
天地の神のまつりを
おろそかにすな
明治天皇

裏面もご覧ください。

神社は心のふるさと

未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

『五箇條の御誓文』

- 一、広く会議を興し、万機公論に決すべし
(広く人材を求めて会議を開き議論を行い、大切なことは全て公正な意見によって決めましょう。)
- 一、上下心を一にして、盛に経綸を行ふべし
(身分の上下を問わず、心を一つにして積極的に国を治め整えましょう。)
- 一、官武一途庶民に至る迄、各其志を遂げ、人心をして倦ざらしめんことを要す
(文官や武官はいうまでもなく一般の国民も、それぞれ自分の職責を果たし、各自の志すところを達成できるように、人々に希望を失わせないことが肝要です。)
- 一、旧来の陋習を破り、天地の公道に基くべし
(これまでの悪い習慣をすてて、何ことも普遍的な道理に基づいて行いましょう。)
- 一、智識を世界に求め、大に皇基を振起すべし
(知識を世界に求めて天皇を中心とする麗しい国柄や、伝統を大切に、大いに国を発展させましょう。)

神道知識の誘ひ「雅楽」

雅楽は、シルクロードを通して、中国大陸そして朝鮮半島を経由する大陸系の楽舞と日本古来の声楽や舞の総称であります。五世紀頃から伝来したアジアの音楽舞踏を、平安時代に日本の伝統の美風と風土によって完成させたものです。神社の大切なお祭りに、神職がお供え物をお供えすることや、祝詞祈願をするのと同じ気持ちを持って、演奏したり舞を神さまにお供えして、お慰めします。そのことによって、式典に彩りを重ねます。

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp>

